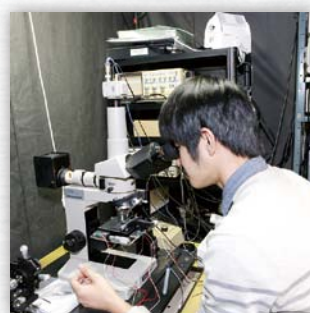


National Institute of Technology,
Numazu College

Outline 2016

2016 沼津高専 概要



www.numazu-ct.ac.jp



●教育理念

「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」

●教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与すること。

●教育方針

- 一、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 一、コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 一、実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 一、教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

●学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 一、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 一、自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 一、工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 一、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 一、実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

●養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

●学生受入方針（アドミッションポリシー）

- 一、科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
- 一、自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 一、科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 一、他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

校長あいさつ

校長 藤本 晶



高等専門学校（高専）は、一貫した技術者教育により、社会で必要とされる技術者を育成しています。「技術」には机上の学習に加えて、身体で覚えこむ部分が多いため、スポーツや芸術と同様に早期からの教育が必須となります。その意味で中学卒業生を受け入れる高専は、技術者を養成するための最適な教育機関と言えます。

技術者への教育に特化しているため、大学入試センター試験を受験することなく本科を卒業、および専攻科修了を可能としています。自らが決めた学科の専門の勉学に集中できる環境が整っています。色々な事柄を学ぶと同時に、学んだ事柄を現実の問題に応用するためのカリキュラムを準備して、社会に役立つ技術者を養成できるのです。

沼津高専では高専での早期の技術者教育を活かしながら、本科の5年一貫教育に2年間の専攻科を加えた一貫教育プログラムを平成24年度から導入しました。中学卒業から本科卒業の5年間で「準学士」を、専攻科までの7年間で「学士」を有し、豊富な実験実習経験と、理論的な解析力を併せ持つ技術者を育成しています。

3年生からは、それぞれの専門分野の科目に加えて、専攻科に連続している「環境・エネルギー」、「医療・福祉」そして「新機能材料」の学際分野から1分野を選択して学習する新たな教育課程を実施しています。これにより地域のニーズ、技術の高度化、および産業構造の変化に柔軟に対応できる体制を整えています。

この教育体制の下、自らの確固たる専門分野の深い知見に加えて、他分野にまたがる広い視野を併せ持ち、地球的視点から物事を観察し判断できるグローバル技術者の養成を目指して、専門分野はもとより、広く人文科学分野でも広い知識と深い理解を持てるように、アクティブラーニングや英文多読、コミュニケーション教育に力を注いでいます。

さらに技術者には高い倫理観、豊かな人間性が求められます。沼津高専では、低学年で寮生活を経験してもらいます。この集団生活を通じて、相手に対する優しさや思いやり、自己を律する厳しさ、そして集団でのルールや自らの役割などを学べます。寮生活の経験は、将来の業務でのチームプレーに大きな自信と力を与えてくれます。

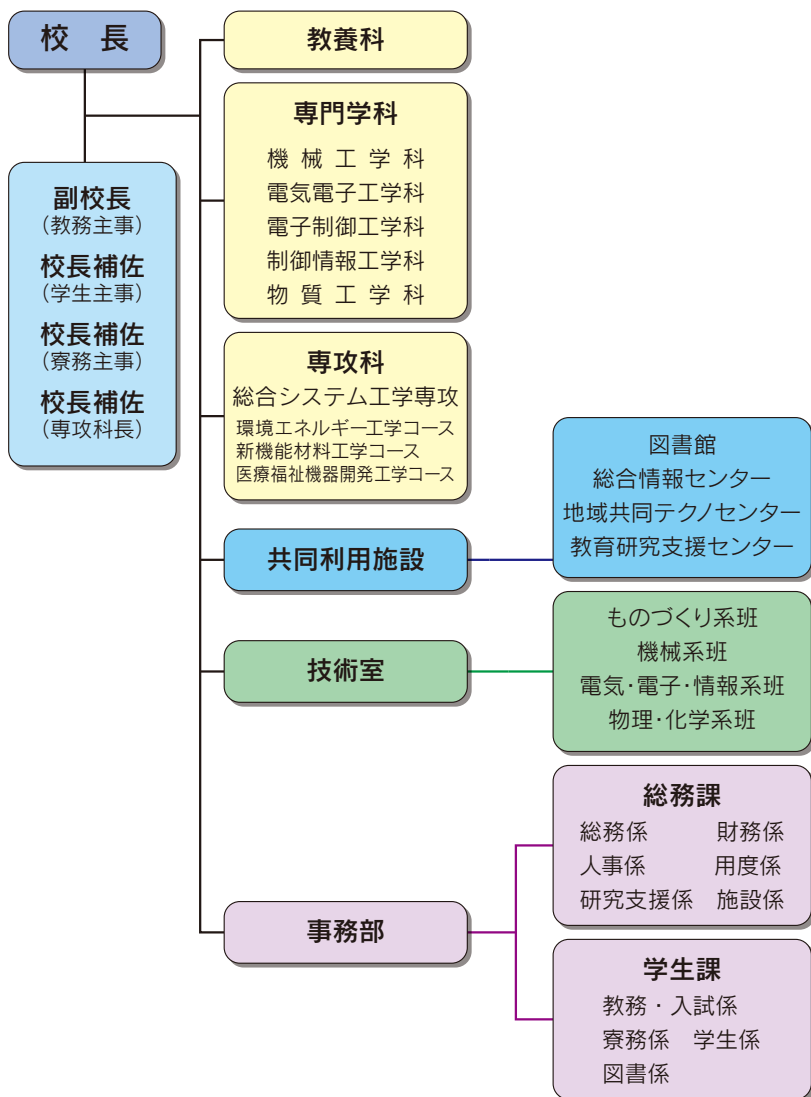
また本校は静岡県東部地域唯一の工科系高等教育機関として、地元企業との共同研究はもとより、地域の産官学協働事業である「ファルマバレープロジェクト」推進の一翼を担うとともに、地域人材の養成や拠点形成のための「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）」事業を通じて、地域の産業振興に貢献しています。

概要 Outline



- 所在地 静岡県沼津市大岡3600
- 設置 昭和37年3月29日
- 本科 修業年限 5年
 - 機械工学科
 - 電気電子工学科
 - 電子制御工学科
 - 制御情報工学科
 - 物質工学科
- 専攻科 修業年限 2年
 - 総合システム工学専攻
 - 環境エネルギー工学コース
 - 新機能材料工学コース
 - 医療福祉機器開発工学コース
- 学生定員 1,048名
- 施設
 - 敷地 89,599㎡
 - 建物 35,538㎡

●組織図



●役職員

■役職	■氏名
校長	藤本 晶
副校長(教務主事)	小林 隆志
校長補佐(学生主事)	芳野 恭士
校長補佐(寮務主事)	小林 美学
校長補佐(専攻科長)	高野 明夫
教養科長	佐藤 誠
機械工学科長	村松 久巳
電気電子工学科長	野毛 悟
電子制御工学科長	遠山 和之
制御情報工学科長	藤尾三紀夫
物質工学科長	後藤 孝信
図書館長	大久保清美
総合情報センター長	宮下 真信
地域共同テクノセンター長	稲津 晃司
教育研究支援センター長	佐藤 憲史
技術室長	佐藤 憲史
事務部長	大山 正人
総務課長	露木 弘充
学生課長	宇野 裕之

平成28年4月1日現在

●現 員

■区分	■現員
●教育職員	84
校長	1
教授	34
准教授	37
講師	7
助教	5
●技術系職員(技術室)	14
●事務系職員	34
合 計	132

平成28年4月1日現在

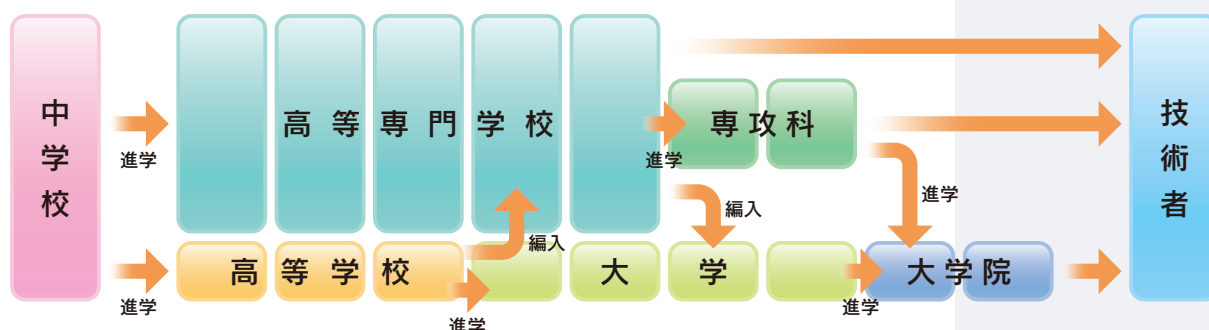
●高等専門学校(高専)とは

高等専門学校は、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間一貫の技術者教育を行う高等教育機関です。高専は、我が国の産業の発展と科学技術教育のより一層の振興を図るために創設されました。

実験・実習を重視した専門教育を早期の段階から行うことにより、20歳の卒業時には大学と同程度の知識・技術が身につけられるカリキュラムとなっています。

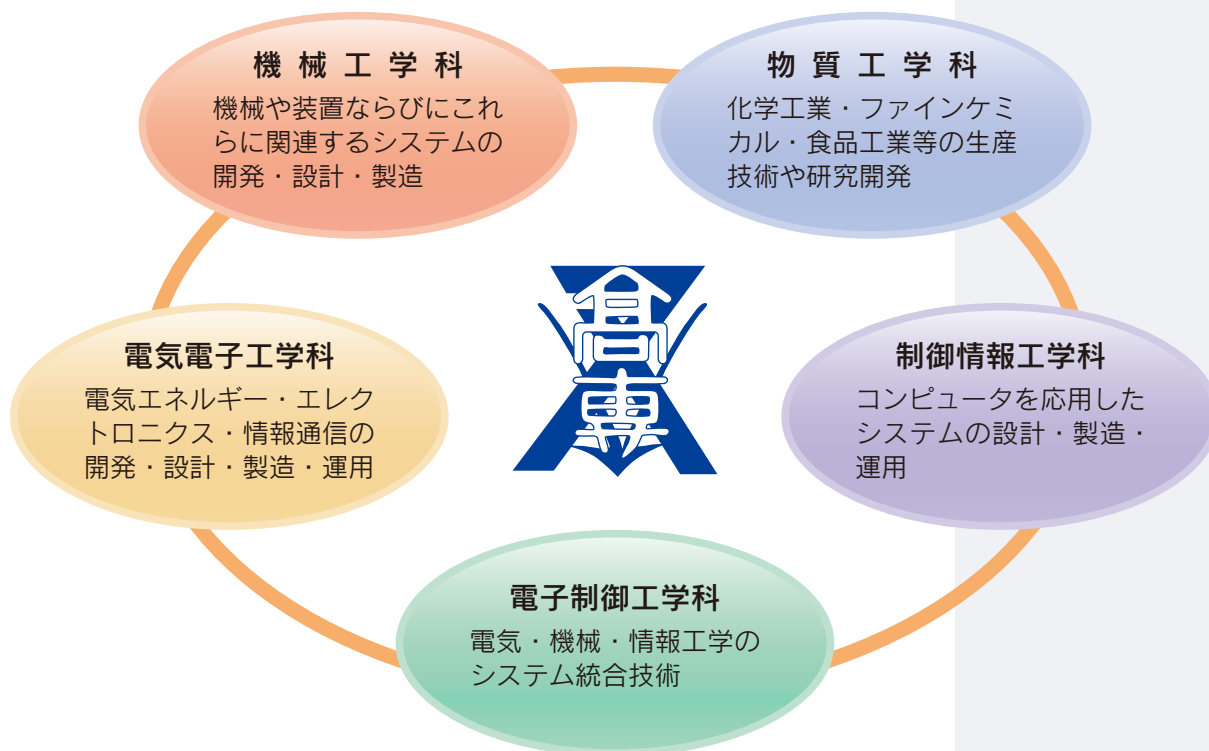
また、5年間の高専本科を卒業した学生を対象に、より専門的で高度な複合的・融合的カリキュラムを通じて、従来の専門分野を超えた技術者の育成を目指す専攻科も設置されています。

沼津高専は開校以来およそ50年にわたって優秀な技術者を卒業生として送り出し、ものづくり大国である日本を支えてきました。



●学科構成

沼津高専には5つの専門学科があり、学生はいずれかの学科に所属し、自らの専門的知識を深めていきます。



特色ある技術者教育

Features of Engineering Education

教育課程の特徴

沼津高専では、5年間一貫の教育課程のなかで、一般科目と専門科目をバランスよく学習し、卒業時には大学と同程度の知識・技術が身につけられるカリキュラムとなっています。



1年 工学基礎II

● 実験・実習を重視した専門教育

第1学年において、技術者として共通に必要な知識である有効数学や計測誤差および安全教育を座学で学習する「工学基礎Ⅰ」および全ての学科の実験・実習を一通り体験する「工学基礎Ⅱ」を全学生が受講するなど、低学年から実験・実習等を重視した専門教育を実施しています。

第1学年は学科の枠を越えた混合学級編成としていますが、第2学年以降は専門学科別の学級編成になります。

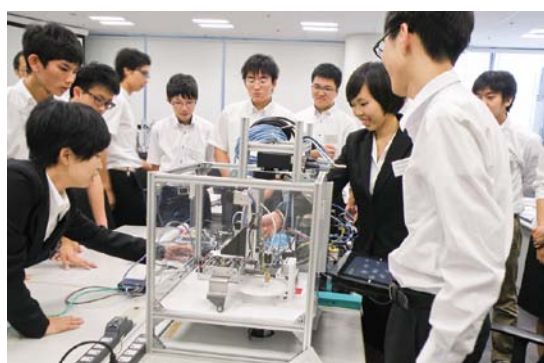


2年「ミニ研究」発表会

● 課題解決型の実践的教育

学生が主体的に学び、課題に対する解決方法を提案するなどの創造性を育成するために、第2学年では「ミニ研究」を実施しています。全教員が2年生全員を2～3名ずつ受けもって研究課題を指導します。学生は与えられたテーマについて自ら調査・研究・製作の計画を立てて実行します。

第3学年以降でも、各専門学科のカリキュラムのなかで課題解決型の教育プログラムが組み込まれています。



企業でのインターンシップ

● 産業構造の変化に対応した学際教育

第3学年～第5学年では、所属学科の専門基盤科目と同時に学際3分野（環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉）から1分野を選択して学際科目を受講します。

● インターンシップ

主に第4学年において半数の学生が企業での1～2週間の就労体験に参加します。高専で学んでいる内容が実際の仕事で役立つことを知り、また、先輩たちの頼もしい姿を見て、学生たちは学習意欲を向上させます。受け入れ企業は年々増加しており、学生の活動は高く評価されています。

● 卒業研究

5年間の学習のまとめとして「卒業研究」を実施しています。指導教員の下で具体的なテーマについて研究を行い、論文としてまとめます。この活動を通じて、新しい問題への取り組み方、自立的で継続的な問題解決の方法・態度の修得とともに、工学技術の社会的、産業的役割の理解を促します。

卒業研究のテーマの例

- 高齢者の重心移動訓練を支援する空気圧装置の開発
- ソーラー発電における変換効率の評価と向上
- 橋梁調査・点検ロボットシステムの構築
- Quadcopterの制御機構に関する研究
- 農作業最適化に向けたIoTセンサネットワークの研究
- 碾茶およびその香煎茶の糖吸収抑制作用に関する研究

学習サポート

高専での学習は中学校までと比べて専門的で高度な内容を含んでいるため、勉強のペースがなかなかつかめずに苦心している学生もいます。勉強の悩みや授業で分からなかった点を解決する場として「学習サポートセンター」を平成28年に開設しました。

学習サポートセンターは、開放的な「Fuji cafe」と小教室「礎塾」があり、Fuji cafeでは分からないところを教員に気軽に質問したり、学生同士で教え合いながら課題を解決するほか、一人で自習することもできます。礎塾は講義形式でワンポイントレッスンを開講したり、教員が勉強の悩み事を聞いて相談に乗るのに使われています。



開放的なFuji cafe



Fuji cafe (手前)と礎塾 (ドアの奥)

外部機関による評価

● 機関別認証評価

大学及び高等専門学校は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による機関別認証評価を平成16年度から7年以内ごとに受けることが学校教育法により義務付けられています。

国立高等専門学校機構は、文部科学大臣の認証を受けている評価機関である独立行政法人大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審することとしており、本校は、平成17年度に第1回目、平成23年度に第2回目の機関別認証評価を受審し、「沼津工業高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」と評価されています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar.2012

● JABEE

JABEEとはJapan Accreditation Board for Engineering Educationの頭文字をとったものであり、日本技術者教育認定機構のことでです。

同機構は技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体で、大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、認定する事業を行っています。

本校では、本科4年生から専攻科2年生までの4年間について、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」を構成しており、平成16年から日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けています。

本校の技術者教育が4年制大学の教育レベルと同等であることが保証されるとともに、プログラム修了生は、国際的に通用する基本的な学力・技術力を有する者として、社会で受け入れられることとなります。具体的には修習技術者と称することができ、技術者としての重要な国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。



沼津工業高等専門学校 専攻科
総合システム工学プログラム



●機械工学科の概要

機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

第2～3学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また第2～5学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした専門科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学実験による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。

また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目と連携させて学びます。第5学年で行われる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決するために必要となる総合的な能力を養っています。



2年 機械工作実習（フライス盤による加工実習）



5年 機械設計製図（CAD演習）

●主な授業科目

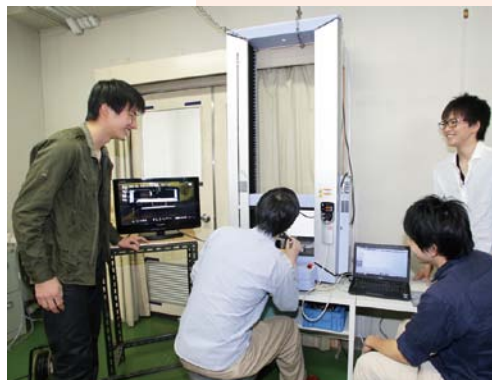
材料力学、熱力学、水力学、金属材料学、機械工作法、機構学、制御工学、機械設計法、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	氏名	■専門分野
教 授	博士(工学)	西田 友久	材料力学・表面工学
教 授	博士(工学)	小林 隆志	設計工学・圧力技術 技術士(機械部門)
教 授	工学博士	村松 久巳	流体工学・音響工学
教 授	博士(工学)	三谷祐一朗	制御工学・生産システム
准教授	工学修士	井上 聡	金属材料 技術士(金属部門)
准教授	修士(工学)	永禮 哲生	切削工学
准教授	博士(工学)	鈴木 尚人	医用生体工学・福祉工学
准教授	修士(工学)	山中 仁	設計工学・機構学 技術士(機械部門)
准教授	博士(工学)	新富 雅仁	燃焼工学
准教授	博士(工学)	松田 伸也	材料力学・破壊力学
助 教	修士(工学)	前田 篤志	流体工学



5年 機械工学実験（油空圧工学基礎実験）



5年 卒業研究（PCの液晶ディスプレイを利用した光弾性実験）

●電気電子工学科の概要

地球環境に配慮したクリーンエネルギーの確保やCO₂を削減するための新技術、クラウドコンピューティングによる情報ネットワーク社会の構築には、電気電子工学の知識と技術が必須です。電気電子工学科では、幅広い産業分野において電気電子工学の知識と技能を活かした、問題解決能力を持つ、優れた技術者の養成に努めています。特に、近年の高度化した技術に対応できるように、時代に即した授業カリキュラムを構築し、講義による理論の修得と実験による技能の体得がスムーズに行われるように配慮しています。

電気電子工学の根幹をなす、回路理論や電磁気学などの基礎科目は、低学年から卒業まで学年に応じた内容でステップアップすることにより、理論と応用力を修得する構成となっています。高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講し、技術者としての素養を涵養できるよう工夫しています。

他の特徴として、講義と連動した実験テーマの充実を図っています。電気回路理論、電磁気現象を確認する基礎実験はもとより、コンピュータを利用した情報処理系の実験も実施します。特に電気系技術者に必要とされる、電子回路の設計技術と解析技術の修得に向け、回路シミュレータを用いた実験も実施します。また、本学科は高電圧関連の実験設備も充実しており、電気主任技術者（電験）認定校です。在学中に所定の課程を修めて卒業すると、実務経験を経て第二種電気主任技術者資格が取得できます。



5年 卒業研究（再生可能エネルギー）



4年 工学実験（電子回路設計コンテスト）

●主な授業科目

回路理論、電磁気学、情報理論、電力工学、制御工学、コンピュータ工学、通信工学、電子回路、固体電子工学、電気電子機器、プログラミング、電気電子工学実験、エネルギー変換工学、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(工学)	佐藤 憲史	光エレクトロニクス
教 授	博士(工学)	高野 明夫	パワーエレクトロニクス・電動機制御
教 授	博士(工学)	大津 孝佳	静電気工学
教 授	博士(工学)	望月 孔二	電子回路
教 授	博士(工学)	野毛 悟	超音波エレクトロニクス・電子材料
教 授	博士(工学)	西村 賢治	プラズマ工学
准教授	博士(工学)	嶋 直樹	電波物理
准教授	修士(工学)	眞鍋 保彦	計算科学
准教授	博士(工学)	大澤 友克	固体物理学
准教授	博士(工学)	小村 元憲	ナノ物性計測
講 師	博士(工学)	高矢 昌紀	色彩画像工学
助 教	博士(工学)	山之内 亘	モーションコントロール



5年 卒業研究（新機能材料の開発）



2年 創造実験（スピーカの製作）



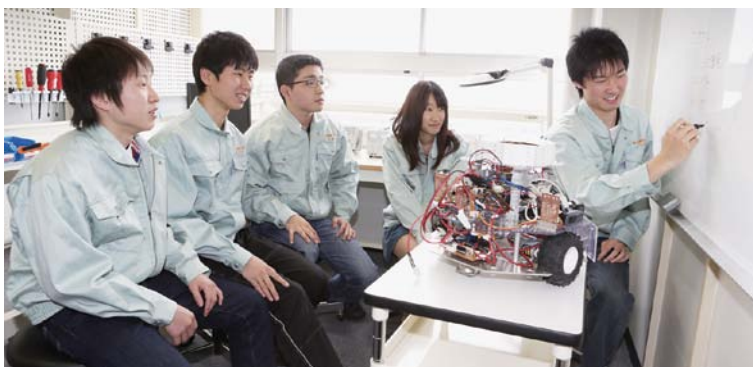
●電子制御工学科の概要

私たちの日常は、さまざまな電子制御技術によって支えられています。例えば自動車、携帯電話、医療機器、これらの用途は全く異なりますが「ハードウェアをコンピュータ制御する」という点で共通しています。

電子制御工学科は、多様な分野に活用できる専門知識と統合技術を備えたエンジニアの養成を目的としています。本学科では、電気電子工学、制御工学、情報工学、機械工学などの分野について基礎から応用までバランスよく学ぶことができます。また、あらゆる技術の基本である数学、物理学、英語の学習指導にも力を注いでいます。

低学年時は、LEGOブロックによるロボット開発、各種プログラミング演習、電子回路の設計、工場実習などを通して、制御に必要な要素技術を身につけます。4学年では、自律型移動ロボットの製作にチームで取り組み、要素技術を適切に統合する力とアイデアを実現する創造力を育成します。5学年の卒業研究では、自ら工学的問題を発見し、培った知識と技術を応用してその解決に挑みます。

本学科の卒業生は、電気・電子系、機械系、情報系など幅広い産業分野で活躍しています。一方で、大学進学はもとより、一層深い専門知識を修得するために沼津高専専攻科への進学を選択し、指導教員のもとでさらに2年間の研究に励み、多数の研究成果を世界に発信しています。



4年 電子機械設計製作 (クリエイティブ・ラボでの自律型移動ロボットの開発)



5年 卒業研究 (ヒューマンロボットインタラクション)

●主な授業科目

工学数理、電磁気学、計算機工学、電子機械設計・製作、回路理論、システム制御工学、プログラミング言語、工業英語、電気・機械製図、工業力学、電子制御工学実験、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	工学修士	長澤 正氏	通信工学・計算機工学
教 授	博士(理学)	牛丸 真司	組み込みシステム・システム制御
教 授	工学修士	川上 誠	画像処理・電子回路
教 授	博士(工学)	遠山 和之	誘電・絶縁材料
教 授	博士(工学)	鄭 萬溶	振動工学・信号処理
准教授	博士(地球環境科学)	鈴木 静男	生態工学・生物地球化学
准教授	博士(工学)	大庭 勝久	流体工学
准教授	博士(医学)	小谷 進	神経科学
准教授	博士(工学)	大沼 巧	電動機制御
講 師	修士(工学)	青木 悠祐	ロボット工学・生体医工学
助 教	博士(工学)	大林 千尋	生体信号処理・ロボット工学



3年 電子機械基礎実習 (LEGOロボットによる競技会)



5年 卒業研究 (医療診断支援システムの開発)

● 制御情報工学科の概要

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器やシステムの設計、製造、運用等の分野で社会に貢献できる実践的技術者の養成を目的としています。

カリキュラムは、情報工学とシステム・制御工学を重視し、機械工学及び電気・電子工学の関係分野を含んで体系的に編成されています。1～3学年では、C/C++言語の修得を目的としたプログラミング演習とマイコン制御ロボットの開発を目的としたメカトロニクス演習に多くの時間を充て、コンピュータに関する様々な知識や技術を修得します。4学年の創造設計では、コンピュータを応用した具体的なシステムの開発を学生がグループで取り組み、企画から設計・製作、そして検証・考察・成果発表に至るまでの一連の過程を体験します。

高学年では、計測制御、メカトロニクス、コンピュータシミュレーション等の工学実験を各実験室において少人数で体験します。5年間一貫教育の総括としての卒業研究では、教員の個別指導のもとに、具体的な問題の発見と解決を通して自己学習力と創造力を育成します。本学科の卒業生は、情報通信、自動車、ロボット、家電、医療機器等、幅広い産業分野で活躍しています。



4年 PBL (プロジェクト型学習) 形式の創造設計



3年 メカトロニクス演習 (マイコン制御の学習)

● 主な授業科目

計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、プログラミング、離散数学、電磁気学、数値解析、設計工学、計測工学、自動制御、ロボット工学、コンピュータグラフィックス、人工知能、データベースシステム、生産システム、制御情報工学実験、卒業研究

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	工学修士 技術士(機械部門)	吉野龍太郎	ロボット工学
教 授	工学修士	長縄 一智	計測工学
教 授	工学博士	長谷 賢治	制御工学
教 授	博士(工学)	宮下 真信	数理神経科学
教 授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	CG・CAD/CAM
教 授	博士(工学)	芹澤 弘秀	電磁波工学
准教授	博士(情報科学)	鈴木 康人	情報論理
准教授	博士(工学)	大久保進也	光情報工学
准教授	博士(工学)	山崎 悟史	通信工学
准教授	博士(工学)	松本 祐子	数値流体力学
講 師	博士(学術)	横山 直幸	人工臓器工学



5年 UMLを用いたソフトウェア設計



5年 卒業研究 (ロボット手の開発)



●物質工学科の概要

最近のファインケミカルズ、セラミックスなどの高機能性材料（材料化学分野）及び分子生物学、酵素・細胞・遺伝子工学（生物工学分野）の急速で広範囲な技術発展にともない、幅広い知識と技術をもった人材が必要となってきました。このような社会の要請に応えるために物質工学科が設置されています。

カリキュラムは、材料化学分野、あるいは生物工学分野の何れにも、専門基礎の教育に重点を置き、理論の教授と並行して実験を行うよう配慮しています。さらに、国際化時代を反映して、専門英語が効率よく修得できるよう科学英語が行われています。

材料化学分野では、無機材料から有機・高分子材料の合成、分析、物性測定、機能性評価、さらには物理化学や化学工学での熱力学やプラント設計に必要な物質収支などを修得できるカリキュラムが用意されており、これからの新しい化学工業の発展に十分対応できる創造性豊かな工業技術者の養成を目指しています。

一方、生物工学分野では、化学に基礎を置いた生物学の手法を十分に身につけ、先端技術を生産に結びつけることができ、化学工業、医薬品工業、食品工業などの研究開発、生産分野で活躍できる工業技術者の養成を目指しています。



2年 微生物学実験（大腸菌の育成曲線の測定）



4年 材料化学実験（エステル化反応の反応速度式の決定）

●主な授業科目

物質工学入門、分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学、科学英語、微生物学、機器分析、固体化学、高分子科学、分離工学、錯体化学、培養工学、酵素工学、細胞工学、遺伝子工学、学生実験（無機分析化学、物理化学、有機化学、化学工学、生物工学）、卒業研究

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	薬学博士	芳野 恭士	生物系薬学・食品科学
教 授	博士(薬学)	後藤 孝信	酵素化学・水産化学
教 授	博士(工学)	稲津 晃司	触媒化学・環境化学
教 授	博士(理学)	大川 政志	無機化学
教 授	博士(工学)	竹口 昌之	生物化学工学・微生物工学
准教授	Ph.D.	青山 陽子	高分子化学・化学教育
准教授	博士(農学)	古川 一実	遺伝子工学
准教授	博士(工学)	藁科 知之	分析化学
准教授	博士(理学)	高田 陽一	界面化学
講 師	博士(学術)	山根 説子	生体材料工学
助 教	博士(工学)	大島 一真	反応工学・触媒化学
助 教	博士(工学)	新井 貴司	無機材料



5年 卒業研究（機能材料の質量分析）



5年 卒業研究（微粒子の形態観察）



● 教養科の概要

沼津高専の本科には5つの学科がありますが、いずれの学科の学生も共通に学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。主に一般科目を担当している教員の組織が教養科です。

一般科目には2つの目的があります。ひとつは所属する学科の専門科目を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。教育内容は、高等学校及び大学の教養課程において学習する範囲の教科の内容を含んでいます。

沼津高専では、高度な専門知識を有する教員によって確かな教養教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術及び的確な判断力・実行力を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

● 主な授業科目

国語、哲学、歴史、地理、数学、物理、化学、生物、保健体育、英語、ドイツ語、美術、音楽

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(理学)	勝山 智男	統計物理学・生物物理学
教 授	文学修士	大久保清美	ドイツ地域文化研究
教 授	工学修士	西垣 誠一	実用教論
教 授	理学修士	遠藤 良樹	幾何学的測度論
教 授	体育学修士	佐藤 誠	スポーツ運動学・体操競技
教 授	博士(工学)	小林 美学	無機化学
教 授	修士(文学)	鈴木 久博	ユダヤ系アメリカ文学
教 授	博士(理学)	住吉 光介	宇宙物理学・原子核物理学
准教授		成田 智子	アメリカ文学・英語教授法
准教授		渡邊志保美	運動生理学・体育実技
准教授	修士(理学)	佐藤 志保	微分幾何学
准教授	修士(文学)	芳賀多美子	近世文学・俳諧
准教授	修士(教育学)	村上 真理	英語教育法
准教授	博士(文学)	小村 宏史	上代文学
准教授	修士(教育学)	黒田 一寿	スポーツ心理学・障がい学生支援
准教授	博士(教育学)	佐藤 崇徳	地理学
准教授	博士(理学)	駒 佳明	素粒子物理学
准教授	博士(文学)	平田陽一郎	中国史
准教授	博士(理学)	鈴木 正樹	微分方程式論・可積分系
准教授	博士(理学)	澤井 洋	幾何学
准教授	修士(文学)	藤井 数馬	認知言語学・英語教育
准教授	博士(理学)	松澤 寛	非線形偏微分方程式論
准教授	博士(文学)	小柳 敦史	近代ドイツ宗教思想史
講 師		笹原 正和	(寮監)
講 師	MA(TESOL)	村松 直子	英文学・英語教授法
講 師	博士(理学)	黒澤 恵光	代数学



1年 英語の授業



2年 物理の実験 (霧箱による放射線の観察)



5年 哲学の授業

1 専攻3コース制

沼津高専は、専門技術者に要求される知識・技術水準の高度化に対応するため、平成8年に2年制3専攻（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）の専攻科を設置しました。そして、近年の産業構造の変化に対応するため、平成26年に総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）の1専攻3コースに専攻科を改編しました。専攻科では、従来の専門分野を超えた融合複合・新領域分野に対応できる創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者の育成を目指して教育を行っています。



専攻科実験（医療福祉機器開発工学コース）

総合システム工学専攻の学習・教育目標

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

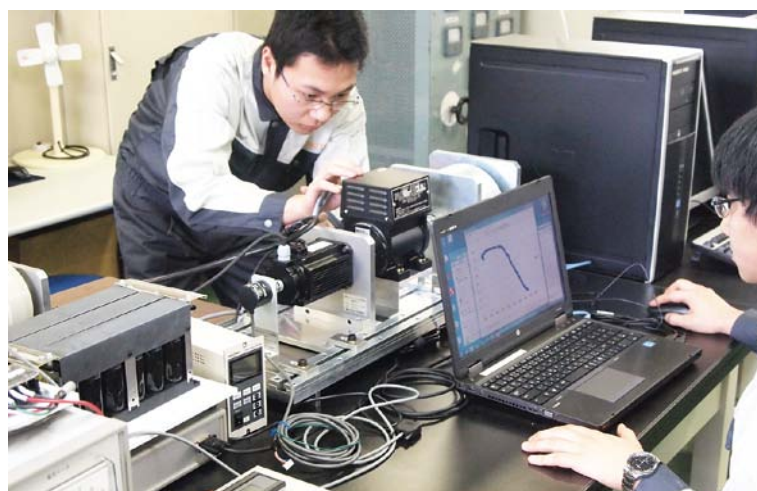
(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

3 コースの教育目標

●環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。



専攻科実験（環境エネルギー工学コース）

●新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、鉄鋼・非鉄・セラミックス材料、生物材料などを包括して学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

●医療福祉機器開発工学コース

機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

専攻科は、以下の要件を満たす人を受け入れます。

1. 広い視野と深い専門性を身に付けた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
2. 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
3. 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間に渡って実践した経験を有する者

専攻科の特徴

●長期インターンシップ

本専攻科は、平成26年に3専攻から1専攻3コース制になって以来、1年生に、長期インターンシップ(学外実習)を必修として課しています。実習期間は10月から翌年1月までの約4か月間です。派遣先は企業現場や大学の研究室で、設計・製造・開発や実験・解析・研究の実務を体験します。

<スケジュール>

- 募集**
 - 6月
受入機関募集(受入票による申し込み)
学生に順次開示
- 計画**
 - 7月~8月
受入機関決定
指導教員と受入機関の間で打合せ
 - 9月
学生向け事前研修会(学内実施)
事前学習報告書提出
- 実施**
 - 10月上旬~1月下旬
インターンシップ実施
教員が適宜受入機関を訪問
- 報告**
 - 報告会
12月初旬: 中間報告会(学内関係者のみ)
2月初旬: 最終報告会(一般公開)

**実習期間
約4か月**
10月上旬から1月下旬まで



●長期インターンシップ実習先 (平成27年度)

コース	種別	長期インターンシップ受入機関
環境エネルギー工学	企業	MyWayプラス株式会社
		平電機株式会社
		有限会社パインテック
		株式会社明電舎(可変速開発課)
		株式会社明電舎(システム開発課)
		ヤマハ発動機株式会社
	横浜ゴム株式会社	
団体研究所	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所	
大学	首都大学東京(吉村研究室)	
新機能材料工学	企業	ケイ・アイ化成株式会社(10~12月)、日揮株式会社(1月)
		富士カプセル株式会社
		矢崎総業株式会社(信頼性基盤技術研究部)
	大学	長岡技術科学大学(小笠原研究室)
		静岡大学(坂井田・矢代研究室) 静岡大学(東郷・島村・藤井研究室)
医療福祉機器開発工学	企業	Across Bio 株式会社
		株式会社工ミック
		チームラボ株式会社
		株式会社ドゥシステム
		株式会社トライ・カンパニー
		フジファルマ株式会社
		株式会社明電舎(システム開発課)
	矢崎総業株式会社(ナノマテリアル研究部)	
	病院	公益社団法人有隣厚生会 富士病院
		東京医科歯科大学(三林研究室)
大学	静岡大学(和田研究室)	



● 特例適用専攻科

専攻科は、平成27年4月に特例適用専攻科として独立行政法人大学改革支援・学位授与機構によって認定されました。特例適用専攻科では、学生が学士の学位申請を行う際に課される学修成果レポートと筆記試験が免除されます。代わりに、学修総まとめ科目の履修計画書と成果の要旨が課されますが、学生にとっては大幅な負担軽減となっています。また、認定専攻科では学位申請を学生が個人で行いますが、特例適用専攻科では、学校で一括して学位申請を行います。

平成27年度には特例による最初の学位申請が行われ、申請者全員に学士（工学）の学位記が授与されました。特例適用専攻科では、規定の単位条件を満たして学修総まとめ科目の履修計画書と成果の要旨を提出すれば、原則申請者全員に学位が授与されます。

● 活躍する専攻科生

専攻科研究では、指導教員が一定水準に達したと判断した専攻科学生については、国内学会や国際会議で研究発表を行わせ、学外研究者によって広く研究成果を評価していただくようにしています。学外で研究発表を行った学生の中には、優秀発表賞などが授与されています。さらに、研究内容が学会論文誌掲載水準にまで達していると判断される場合は、投稿を行い、論文誌への掲載を行っています。



● 専攻科学生の論文発表と講演発表（平成27年度）

学 年	1 年 生			2 年 生			合 計
	環境エネルギー工学	新機能材料工学	医療福祉機器開発工学	環境エネルギー工学	新機能材料工学	医療福祉機器開発工学	
論文発表	0	0	0	2	1	1	4
講演発表	6	3	5	4	18	15	51

● 専攻科学生の学外受賞（平成27年度）

コースと学年	講 演 名 また は 論 文 名 (受賞名)
環境エネルギー工学2年	「高温下で動的曲げモーメントを受ける配管系フランジ締結体の密封特性に関する研究」, 富士山麓A&S 2015 (機械・電気電子分野最優秀ポスター賞)
新機能材料工学2年	“Effect of culture supernatant of <i>Lactobacillus pentosus</i> on <i>E. coli</i> growth”, 第20回静岡健康・長寿フォーラム (Poster Presentation Award)
新機能材料工学2年	“Removal of pulp fibers in pulp and paper mill wastewater by flocculation using <i>Geotricum</i> sp. M111-3”, The 4th International GIGAKU Conference in Nagaoka (優秀ポスター賞)
	「繊維凝集性酵母のセルロース微細繊維凝集性に与える添加物の影響」, 富士山麓A&S 2015 (バイオ・生物・材料・触媒分野優秀ポスター賞)
新機能材料工学2年	「担持ルテニウム触媒を用いる水蒸気共存下のアンモニア合成」, 日本化学会第5回CSJフェスタ2015 (優秀ポスター発表賞)
新機能材料工学2年	“Adaptive Signal Injection Method Combined with EEMF-based Position Sensorless Control of IPMSM Drives”, IEEJ Journal of Industry Applications, Vol. 4, pp. 454-459, July 2015 (国立高等専門学校機構 理事表彰)
医療福祉機器開発工学2年	「表面に傷をつけたフィルム資料の交流高電界下での損失電流波形と電界発光」, 第46回電気電子絶縁材料システムシンポジウム (電気学会東京支部 電気学術奨励賞)

※受賞対象が複数ある場合は、代表的な講演または論文のみを掲載

教育研究支援センター

Education and Research Supporting Center

教育研究支援センターには最新鋭の教育・研究設備が設置され、幅広い産業分野で活躍する実践的・創造的技術者の基本となる、ものづくり教育を行っています。また、教育研究支援センターは、専攻科の医療福祉機器開発工学コースおよび本科の学際教育と密接に関係した教育・研究に利用されています。センターでは技術室の技術職員が実験・実習教育を支援しています。

センターにおける教育・研究活動は次のとおりです。

- 学生への体験的のものづくり実習教育
- 学際分野、特に医療福祉機器開発分野に関する実験・実習
- 卒業研究、専攻科研究および教員研究の実験装置の製作等
- 地域共同テクノセンターと連携した近隣企業等との共同研究

主要設備



介護機器と心電計測器



三次元測定機による計測



レーザー加工機による実験装置製作



エンジンの分解・組み立て実習

医用機器開発分野

医用機器開発実験室 I

自動解析心電計、超音波診断装置、体外循環回路、筋電図・誘発電位検査装置、平板試料ゼータ電位測定システム、エリプソメーター（薄膜計）、3Dプリンタ

医用機器開発実験室 II

重心動揺計システム、モーションキャプチャーシステム、病室設備機器、医療機器教材

計測・分析分野

精密計測実験室

レーザーラマン分光装置、走査型電子顕微鏡、高精度CNC三次元測定機、万能投影機、工具顕微鏡

ものづくり教育分野

ものづくり創造工房エリア

レーザー加工機、溶接設備、手仕上げ加工設備、プレス加工機（2台）

鋳鍛造エリア

鋳造設備、鍛造設備

工作機械室

マシンングセンタ、CNC旋盤、ワイヤ放電加工機、旋盤（11台）、フライス盤（3台）、平面研削盤、円筒研削盤、横中ぐり盤、ボール盤（3台）

南棟

北棟



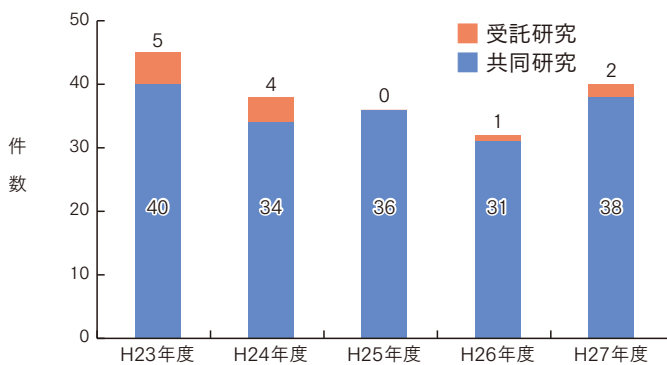
地域共同テクノセンターは、本校における実践的・創造的技術者の育成を近隣企業との共同研究をはじめとする産業界との協働を通して推進するとともに、本校が地域産業の活性化に貢献するために、次の業務を遂行しています。

- 静岡県東部地域の企業をはじめとする企業・機関・団体との共同研究と受託研究の支援と推進
- 幅広い業種の地域企業からの様々な案件についての技術相談
- 本校でのテクノフォーラムや公開講座による社会人リフレッシュ教育の実施
- 地域企業・団体による産官学金連携イベント参加による技術シーズ提供の推進

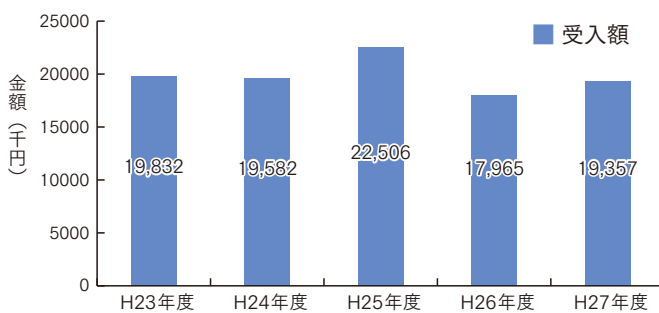
共同研究や受託研究の支援は、マッチング支援だけでなく、センター内に最新設備を設置して実験、試験あるいは解析が行える研究環境を整備することなどの体制をとることについても行います。

技術相談は、産学連携コーディネーターに加え、本校が擁する機械工学、電気電子工学、制御工学、情報工学、材料化学、生物工学の幅広い専門分野の教員が、生産現場から新規開発までの様々な問題、課題、疑問に柔軟に対応します。

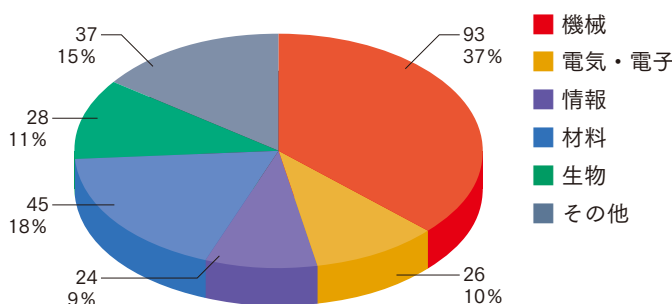
共同研究・受託研究・技術相談の実績



共同研究・受託研究 受入件数 (H23年4月～H28年3月)



共同研究・受託研究 受入金額 (H23年4月～H28年3月)



分野別科学技術相談件数と比率 (H23年4月～H28年3月)



3Dプリンタ (多目的研究室)



核磁気共鳴装置 (共同研究室)



高精度5軸加工システム (共同研究室)

総合情報センター Information Technology Center

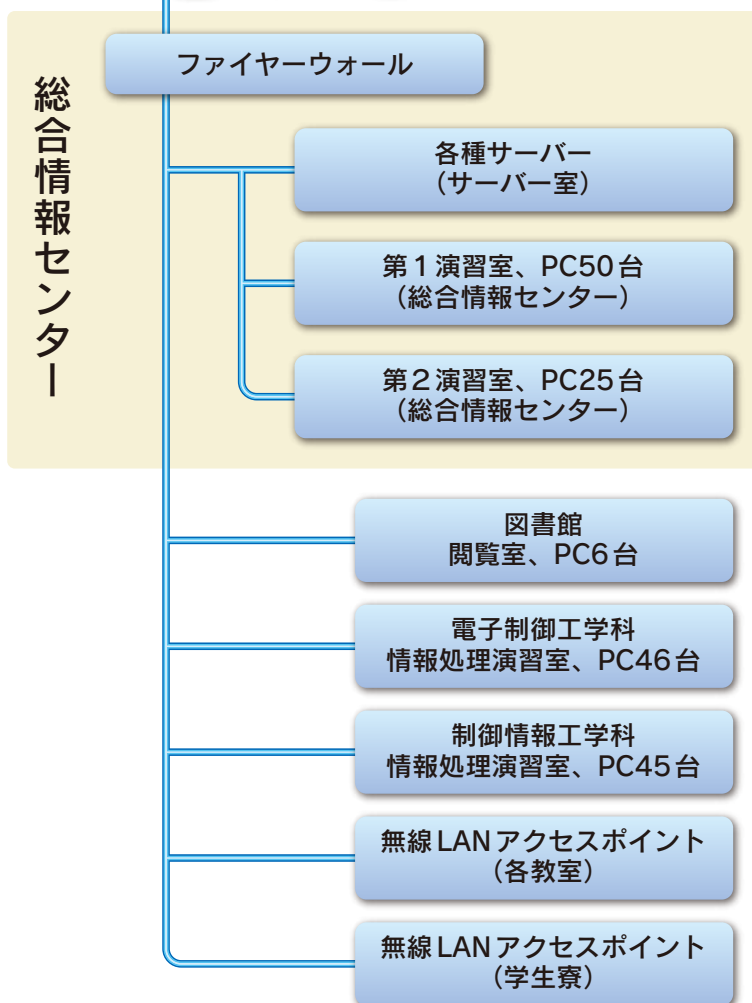
総合情報センターは本校の情報処理教育と情報システムに関わる様々な業務を行っています。その運営は、高い情報技術を有する数名の教員と常駐の技術職員によって行われています。

- 教育用計算機システムの設計・管理運用
- 学内情報基盤の設計・管理運用
- 学内情報資源の有効活用に関わる企画・技術支援
- 情報リテラシー教育・情報処理教育

施設内には50台及び25台のPCを配置した2つの情報処理演習室があります。PCをはじめとする教育用コンピュータシステムは定期的に更新が行われ、ストレスのないハードウェア環境と、教育・研究に必要なソフトウェア環境が整備されています。スキャナや決められた範囲で自由に打ち出せるプリンタなども整備されています。これらの施設・設備は、全学共通のリテラシー教育や、各学科のプログラミング演習などの授業に活用されています。また、情報処理教育の一環として学内プログラミングコンテストや各種講座を開催しています。センターは常時開館しており、レポート作成やe-Learningによる自主学習・研究等にも活用されています。

図書館及び電子制御工学科棟と制御情報工学科棟の情報処理演習室にも、本センターの演習室と同一のPC利用環境が整備されています。また、教室や寮内には無線LANのアクセスポイントがあり、定められたルールの中で自分のPCをネットワークに接続することができます。

インターネット



学内LANの構成



1年 第1演習室における情報リテラシーの講義



演習にも取り組む



放課後には自主学習の学生が利用

図書館運営

図書館は学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。図書館には教育及び研究に必要な情報資料を中心に授業に欠かせない参考図書や豊かな情操を養うための教養書や美術書等が開架書架に並べられています。また、学術専門雑誌及び一般雑誌のほか新聞も自由に閲覧できるようになっています。

情報社会に即応して図書館業務システムを導入し、貸出・返却業務の電算化はもとよりパソコンによる図書検索、蔵書の管理を行っています。パソコンコーナーを設置し、電子情報も閲覧できるようになっています。

利用者サービス

閲覧室の一部には学習コーナーが設けられているので学生は課題研究をしています。英語教育における多読図書の拡充にも力を入れており、英文書籍約2,500冊が英語授業で活用されています。公開講座の影響で外部利用者による貸し出しが増えていきます。TOEIC等の資格コーナーの貸出も増加しています。

読書の推進

朝読書を実施して朝の落ち着いた時間に本を読んで読書の楽しさと心の豊かさを生み出しています。朝読書の書籍推薦を図書館で行っています。

夏休みの読書を推進しており図書室運営書委員会では校内読書感想文コンクールを開催しています。多くの応募作品の中から優秀作品を表彰しています。

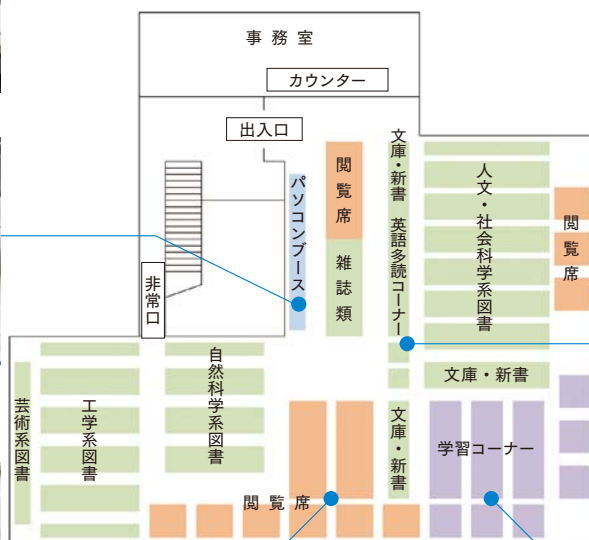
ハイブリッド図書館構想として電子ジャーナル等の導入や新カリキュラム対応の資料等を積極的に整備しています。

- 閲覧貸出法：開架式
- 閲覧定員：100座席
- 検索用端末：8台（内、蔵書検索用2台）

蔵書

平成28年3月31日現在

■区分	■総記	■哲学	■歴史	■社会科学	■自然科学	■技術	■産業	■芸術	■言語	■文学	■その他	■合計
和漢書	4,982	2,686	5,237	4,604	16,549	18,255	464	2,254	3,704	7,432	15,730	81,897
洋書	494	453	366	285	10,021	3,288	10	168	4,790	735	66	20,676
計	5,476	3,139	5,603	4,889	26,570	21,543	474	2,422	8,494	8,167	15,796	102,573
割合 (%)	5.3%	3.1%	5.5%	4.8%	25.9%	21.0%	0.5%	2.4%	8.3%	8.0%	15.4%	100%



学生寮 Student Dormitory

本校は、「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う」との教育方針の下、低学年全寮制を実施しています。そのため原則として1年生は全員、2年生も過半数の学生が入寮しています。また3年生以上の入寮希望者は、選考を経て主に指導寮生として入寮できます。

寮の敷地は学校の北東に位置し、敷地内には翔峰寮・栄峰寮・光峰寮・優峰寮・清峰寮・秀峰寮・明峰寮（女子寮）の7棟があります。居室には主に低学年が使用する2人部屋と高学年が使用する1人部屋があり、共通スペースとして談話室や補食室も各棟に設けられています。

寮務担当教員には寮務主事・寮務主事補・寮務委員の他、専任の寮監が一名配置され、日々の寮生の指導に当たっています。また夜間は全教員が輪番で、外部委託者とともに宿直に当たっています。

また寮内には寮生が組織する寮生会があり、寮長・副寮長・棟長（棟を統括する役員）等指導寮生を中心に、毎日の学習はもとより、規律正しい共同生活、年間行事等の企画・立案がなされ、日々の有意義な寮生活が営まれています。寮生会が企画する行事には、親睦会・夏祭り・クリスマスパーティー等があります。特に5月に実施される漆峰祭（寮祭）は一般公開され、地域の方々との交流の場にもなっています。

● 学生寮現員

平成28年4月1日現在

■寮名	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	合計	備考
清峰寮	56	25	8	5	1	0	95	
秀峰寮	34	14	9	1	0	0	58	
優峰寮	0	24	10	11	4	0	49	
栄峰寮	46	19	16	14	6	0	101	
光峰寮	40	23	8	6	3	0	80	
翔峰寮	1	21	38	26	18	0	104	
明峰寮	34	19	15	5	2	0	75	女子寮
計	211	145	104	68	34	0	562	(留学生6名を含む)



翔峰寮



南寮風景



談話室風景



居室風景



マテカ（寮生会主催の勉強会）



食堂風景

寮生と教員の連携による寮運営

寮生会本部役員（寮長、副寮長を含む30名弱）と寮務担当教職員は、隔週木曜日放課後に「木曜会」と呼ばれる合同会議を開催しています。木曜会では寮生会からの報告、教員からの助言、お互いの意見交換などが行われています。また、全体会議終了後に棟顧問教員と棟長との話し合いが行われ、そこではより細かい情報交換や助言が行われます。



このような寮生会と寮務担当教員との連携により、日々の寮運営が行われています。



親睦会



寮祭

学生支援ゾーン・尚友会館（福利施設）

Student Support Zone / Welfare Facility, "Shoyu-kaikan"

学生支援ゾーン

学生支援体制の強化・充実を図るため、学生課の並びに、保健室・カウンセリングルーム・学生生活支援室を統合配置しています。

学生生活支援室

円滑で充実した高専生活を送れるように、学生生活支援室を設置しています。放課後に、支援室のスタッフが待機しており、学業に関すること、クラブ活動のこと、健康や友人関係のことなどについて、相談に応じています。



保健室

保健室には看護師が常駐しており、学生が心身ともに安全で安心な学生生活を送れるように、健康診断や健康相談、体調不良者の休養や負傷時の応急処置などを行っています。



カウンセリングルーム

担任や親に相談しづらい悩みなど、学生の抱える様々な問題に対応するために、時間を設定して、専門のカウンセラー（週2回）と精神科医（月2回）が相談を受け付けています。



【相談BOX】

校内の3か所に設置。「いきなり人と会って相談というのはちょっと…」という学生にも対応しています。

キャリア支援

学生の就業意識を高め、就職支援をするために、キャリア形成に関する講演や模擬面接、女子学生に対するメイクアップ講習などを行っています。



学生課

学生課は、教務・入試、学生、寮務、図書との4つの係があり、学生生活に直接関係のある業務を取り扱っています。



尚友会館

尚友会館は学生の福利厚生を目的とした施設です。1階には学生食堂・売店・求人コーナーなどがあり、2階には学生会室と学生共用室があります。また、ロビーは、休憩時間の学生の憩いの場となっています。



尚友会館



学生会室



売店



求人コーナー



学生共用室



ロビー



学生食堂

学生データ

Student Information

● 定員及び現員

平成28年4月1日現在

■学科	■定員	■現員					■合計
		1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	40	42 (3)	47 (1)	44 (4)	38 (4)	37 (4)	208 (16)
電気電子工学科	40	42 (5)	44 (1)	41 (7)	42 (1)	39 (5)	208 (19)
電子制御工学科	40	42 (4)	43 (2)	44 (3)	47 (7)	32 (3)	208 (19)
制御情報工学科	40	42 (5)	44 (5)	43 (5)	38 (7)	49 (11)	216 (33)
物質工学科	40	44 (17)	40 (18)	50 (22)	47 (15)	42 (13)	223 (85)
計	200	212 (34)	218 (27)	222 (41)	212 (34)	199 (36)	1,063 (172)

() 内は女子で内数

平成28年4月1日現在

■専攻科	■定員	■現員		■合計
		1年	2年	
総合システム工学専攻	24			
(環境エネルギー工学コース)		9 (1)	9 (0)	18 (1)
(新機能材料工学コース)		6 (2)	6 (2)	12 (4)
(医療福祉機器開発工学コース)		10 (2)	11 (1)	21 (3)
計	24	25 (5)	26 (3)	51 (8)

() 内は女子で内数

● 入学志願者状況

平成28年4月1日現在

■学科	平成27年度				平成28年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40 (20)	53 (21)	43 (20)	1.3 (1.1)	40 (20)	57 (30)	42 (20)	1.4 (1.5)
電気電子工学科	40 (20)	53 (24)	42 (20)	1.3 (1.2)	40 (20)	49 (23)	42 (20)	1.2 (1.2)
電子制御工学科	40 (20)	52 (32)	43 (20)	1.3 (1.6)	40 (20)	60 (36)	42 (20)	1.5 (1.8)
制御情報工学科	40 (20)	68 (38)	43 (20)	1.7 (1.9)	40 (20)	49 (25)	41 (20)	1.2 (1.3)
物質工学科	40 (20)	57 (36)	42 (20)	1.4 (1.8)	40 (20)	54 (33)	43 (20)	1.4 (1.7)
計	200 (100)	283 (151)	213 (100)	1.4 (1.5)	200 (100)	269 (147)	210 (100)	1.3 (1.5)

() 内は推薦選抜による内数

平成28年4月1日現在

■専攻科	平成27年度			平成28年度		
	募集人員	志願者	入学者	募集人員	志願者	入学者
総合システム工学専攻						
環境エネルギー工学コース		24	9		26	9
新機能材料工学コース	24	12	6	24	12	6
医療福祉機器開発工学コース		28	11		20	10
計		24	64	24	58	25

● 外国人留学生

平成28年4月1日現在

■出身国	機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			制御情報工学科			物質工学科			■合計
	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	
ケニア共和国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ラオス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
マレーシア	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
モンゴル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
計	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1	6

● 出身地別学生数

平成28年4月1日現在

■出身地	■学生数
静岡県	957
神奈川県	86
山梨県	8
愛知県	3
青森県	1
富山県	1
滋賀県	1
外国人留学生	6
計	1,063

専攻科は除く

● 静岡県内郡市別学生数

平成28年4月1日現在

■東部地区		■中部地区		■西部地区	
■出身地	■学生数	■出身地	■学生数	■出身地	■学生数
沼津市	155	静岡市	78	浜松市	86
富士市	107	焼津市	22	磐田市	18
駿東郡	79	藤枝市	22	湖西市	9
三島市	69	掛川市	22	袋井市	6
御殿場市	61	島田市	15	周智郡	1
富士宮市	45	御前崎市	4		
裾野市	34	牧之原市	4		
田方郡	30	菊川市	3		
伊東市	20	榛原郡	3		
伊豆の国市	20				
伊豆市	13				
賀茂郡	12				
下田市	11				
熱海市	8				
計	664	計	173	計	120

専攻科は除く

●平成27年度卒業生の進路状況

平成28年4月1日現在

	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	計
就職	14	13	19	8	17	71
進学	17	25	19	24	22	107
その他	3	0	3	1	0	7
計	34	38	41	33	39	185

●機械工学科

就職先 アステラスファーマテック(株)、(株)アトックス、JXエンジニアリング(株)、JX日鉱日石エネルギー(株)、静岡ガス(株)、(株)資生堂、中央発條(株)、東海旅客鉄道(株)、東燃ゼネラル石油(株)、東洋インキ(株)、浜松ホトニクス(株)、日立オートモティブシステムズ(株)、(株)三保造船所、(株)レイズ

進学先 山形大学工学部、茨城大学工学部、東京大学工学部、東京工業大学工学部、新潟大学理学部、長岡技術科学大学工学部、信州大学工学部、静岡大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、大阪大学工学部、神戸大学理学部、首都大学東京都市教養学部

●電気電子工学科

就職先 アステラスファーマテック(株)、(株)NHKアイテック、小野薬品工業(株)、(株)関電工、(株)JALエンジニアリング、中部電力(株)、東海旅客鉄道(株)、東京コンピュータサービス(株)、(株)日立ハイテクサイエンス、富士フィルムメディカル(株)、(株)日立ビルシステム、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)明電舎

進学先 沼津工業高等専門学校専攻科、千葉大学工学部、東京農工大学工学部、東京工業大学工学部、お茶の水女子大学理学部、横浜国立大学理工学部、長岡技術科学大学工学部、福井大学工学部、岐阜大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、京都工芸繊維大学工学部、立命館大学理工学部

●電子制御工学科

就職先 (株)アステック、伊豆急行(株)、ANAラインメンテナンステクニクス(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、独立行政法人国立印刷局、シチズン電子(株)、スター精密(株)、セイコーエプソン(株)、第一精工(株)、THKインテックス(株)、天間特種製紙(株)、東海旅客鉄道(株)、東芝キャリア(株)、浜松ホトニクス(株)、有限責任事業組合プラモ、三浦工業(株)、矢崎総業(株)、ヤマハモーターエンジニアリング(株)、(株)LIXIL

進学先 沼津工業高等専門学校専攻科、北海道大学工学部、東京工業大学工学部、横浜国立大学理工学部、豊橋技術科学大学工学部

●制御情報工学科

就職先 (株)システムシェアード、シチズン電子(株)、(株)テクノサイト、東京ガス(株)、(株)日本一ソフトウェア、浜松ホトニクス(株)、(株)明電舎、(株)ヤクルト本社

進学先 沼津工業高等専門学校専攻科、北海道教育大学教育学部、筑波大学情報学群、群馬大学社会情報学部、千葉大学工学部、電気通信大学情報理工学部、新潟大学工学部、長岡技術科学大学工学部、信州大学繊維学部、金沢大学理工学域、静岡大学情報学部、名古屋大学情報文化学部、豊橋技術科学大学工学部、大阪大学基礎工学部、九州大学芸術工学部

●物質工学科

就職先 旭化成(株)、アステラスファーマテック(株)、イハラニッケイ化学工業(株)、小野薬品工業(株)、クノール食品(株)、サントリースピリッツ(株)、静岡ガス(株)、(株)タウンズ、東芝機械(株)、東燃ゼネラル石油(株)、東邦化工建設(株)、東レ(株)、日東電工(株)、富士フィルムビジネスイキスパート(株)、Meiji Seika ファルマ(株)

進学先 沼津工業高等専門学校専攻科、千葉大学工学部、東京農工大学農学部、東京工業大学工学部、東京工業大学生命理工学部、東京海洋大学海洋科学部、長岡技術科学大学工学部、信州大学繊維学部、金沢大学理工学域、岐阜大学応用生物科学部、岐阜大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、三重大学生物資源学部、大阪大学工学部、神戸大学農学部、岡山大学理学部

●平成27年度専攻科修了生の進路状況

平成28年4月1日現在

	環境エネルギー工学コース	新機能材料工学コース	医福祉機器開発工学コース	計
就職	3	6	5	14
進学	2	3	5	10
計	5	9	10	24

●環境エネルギー工学コース

就職先 日医工ファーマテック(株)、日本電子(株)、横浜ゴム(株)

進学先 横浜国立大学大学院環境情報学府、首都大学東京大学院システムデザイン研究科

●新機能材料工学コース

就職先 日興製薬(株)、富士市役所、三菱化学ハイテクニカ(株)、森永乳業(株)、(株)リンクス

進学先 東京工業大学物質理工学院(修士課程)材料系、横浜国立大学大学院工学府、九州大学大学院工学府

●医福祉機器開発工学コース

就職先 (株)NHKメディアテクノロジー、エミック(株)、東海電子(株)、(株)堀場テクノサービス、ユニ・チャームプロダクツ(株)

進学先 東北大学大学院工学研究科、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科、名古屋大学大学院創薬科学研究科、豊橋技術科学大学大学院工学研究科、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

事業費概要・建物配置図

Income and Expenditure / Campus Map

●平成27年度 収入・支出決算額

収入		(単位：千円)
■区分	決算額	
運営費交付金	44,991	
施設整備費	75,264	
自己収入	290,168	
授業料	251,481	
入学料	20,439	
検定料	6,164	
雑収入	12,084	
産学連携等研究収入	23,472	
受託研究	9,600	
共同研究	10,217	
受託事業	553	
間接経費	3,102	
寄付金収入	7,388	
その他補助金	2,158	
中小企業技術者研修事業費補助金	1,000	
大学改革推進等補助金	992	
その他	166	
合計	443,441	

支出		(単位：千円)
■区分	決算額	
業務費	340,674	
教育研究経費(教育研究支援経費含む)	244,055	
一般管理費	96,619	
施設整備費	75,264	
産学連携等研究経費	17,556	
受託研究	7,999	
共同研究	9,131	
受託事業	426	
間接経費	0	
寄付金事業費	8,967	
その他補助金	2,158	
中小企業技術者研修事業費補助金	1,000	
大学改革推進等補助金	992	
その他	166	
合計	444,619	

●建物配置図

■No.	■建物名称	㎡	■No.	■建物名称	㎡
1	管理棟(共通棟、E科棟含む)	5,772	16	第1体育館	1,027
2	共通棟		17	第2体育館	880
3	専攻科棟	1,183	18	武道館	331
4	講義棟	1,704	19	尚友会館(学生食堂等)	720
5	機械工学科・制御情報工学科棟	2,251	20	守衛所	26
6	電気電子工学科棟		21	学生寮管理棟・浴室	324
7	電子制御工学科棟	2,180	22	学生寮(優峰寮)	869
8	制御情報工学科実験棟	780	23	学生寮(秀峰寮)	866
9	物質工学科棟	2,337	24	学生寮(清峰寮)	1,380
10	物質工学科生物工学実験棟	514	25	学生寮(明峰寮)	1,315
11	教育研究支援センター 南棟	759	26	学生寮(光峰寮)	1,276
12	教育研究支援センター 北棟	603	27	学生寮(栄峰寮)	1,754
13	図書館(総合情報センター含む)	2,089	28	学生寮(翔峰寮)	1,752
14	総合情報センター		29	学生寮食堂(合宿施設含む)	862
15	地域共同テクノセンター	415	30	合宿施設	



沿革・校歌

History / School Song

● 沿革

- 昭和37.3.29 沼津工業高等専門学校（機械工学科（2学級）及び電気工学科（1学級））設置
- 昭和41.4.5 工業化学科設置
- 昭和61.4.1 電子制御工学科設置
- 平成元.4.1 工業化学科が物質工学科に改組
- 平成4.4.1 機械工学科（2学級）が機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
- 平成8.4.1 専攻科（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）設置
- 平成11.4.1 電気工学科が電気電子工学科に改組
- 平成16.4.1 独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校へ移行
- 平成26.4.1 専攻科（3専攻）を総合システム工学専攻（3コース）に改編

● 校歌 作詞 市川 良輔 作曲 渡辺 浦人

東海に聳えて名あり	新たなる使命に満ちて	天地のただふところに
ゆるぎなき富士の高嶺よ	科学するみち一すじよ	伸びいそぐ「小林」が樹よ
仰ぎ見る沼津が丘に	学び成す礎とわに	春秋のいそしみふかく
わが心直くゆたけし	わが腕さやけくつよし	わが希望さだかに遂げむ
日本の工業が呼ぶ	日本の工業が待つ	日本の工業興す
若き日の五つ年今ぞ	若き日の五つ年今ぞ	若き日の五つ年今ぞ

Allegro ♩ = 100~120 “明るく元気に”

とう かい に そび えて な あー り ゆ

る ぎ な き ふじ の た か ね よ

あ お ぎ み る ぬ ま づ が お かー に わ

が こ こ ろ な お く ゆ た け し

に っ ぽ ん の こ う ぎ ょう が よー ぶ わ

か き ひー の い つ と せ い ま ぞ



Access Map

交通案内

- JR三島駅北口よりタクシーにて約10分
- JR沼津駅南口より富士急シティバス沼津高専行乗車
- JR下土狩駅より徒歩約20分
- 東名高速道路沼津インターチェンジより車で約5分
- 新東名高速道路長泉沼津インターチェンジより車で約5分

2016 沼津高専 概要

編集発行

● 2016年6月 ● 独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校
 〒410-8501 沼津市大岡3600
 TEL 055 (921) 2700 FAX 055 (926) 5700
<http://www.numazu-ct.ac.jp>